

□議員名：奥良秀

1 幼稚園・保育所等の熱中症対策について

論点	幼稚園・保育所等が行う屋外活動時での熱中症対策の現状を市はどのように評価し、問題点や課題等をどのように把握しているか。
回答	今年の夏は、連日、熱中症警戒アラートが発表されるような状況で、日陰であっても屋外活動自体が危険だと判断した場合、プール活動以外の屋外活動を行わないなど、各施設で熱中症による事故の防止に努めている。市は、国からの注意喚起を各施設に周知し、熱中症には十分注意するよう促している。各施設では、国が示す熱中症対策に関する注意事項は遵守した上で、屋外活動を実施する際には、各施設で工夫しながら対策を講じている。

論点	子供たちの屋外活動の機会を減らさないために、熱中症対策の支援として幼稚園、保育所等が自由に活用できる補助金制度などを市は考えられないのか。
回答	補助金制度については必要としているという現場の声を、担当課としては、現在聞いていないため、そのあたりも含めて、今後、検討する。

2 児童生徒の登下校時での熱中症対策について

論点	現在、小中学校の登下校時において、熱中症対策はどのようなことを実施しているのか、そして、それをどのように把握しているのか。
回答	教育委員会では、山口県教育委員会が令和6年5月に発出した「学校における熱中症対策ガイドライン」に沿って熱中症対策を講じるよう、校長会等を通じて指示するとともに、異常な暑さが始まった7月に、再度、学校に注意喚起をしている。これらを受け、各学校では登下校時の帽子の着用や日傘の使用など、地域の実情や児童生徒の状況に応じて対策を行っている。また、各学校の熱中症対策の具体的な取組について、定期的に行われる校長会において情報交換を行っており、効果的な対策や事例を共有することで、全体の取組をより一層、強化している。

論点	登下校時の熱中症対策として直接、生の声を子供たちから聞くというのは、とてもよいことだと思うので、アンケートの実施を考えられないか。
回答	子供たちの様子を、まず身近に感じるのは保護者の方か先生だと思うので、まず聞いてみたいと考える。

論点	中学生の熱中症対策として、期間を決めて自転車通学の自由化を行ってはどうか。
回答	教育委員会としては、学校に安全に通学できるように指導することを求めるとともに、議員御提案のアイデアを学校にも紹介するなどして、子供たち自身による話し合いを通して、自らの生活を改善していく活動の推進を支援していく。

3 屋外作業に従事する市職員の熱中症対策について

論点	猛暑の中、ごみ収集や除草作業等、屋外作業に従事する市職員の熱中症対策は、現在どのように実施しているのか。
回答	定期的な水分補給や休憩を取る。ネッククーラーのような熱を逃がすようなものを着用する。また、汗をかくと塩分濃度が低下するため、補うための塩飴や飲料水を配布するなど、熱中症リスクに配慮をしながら、職員同士でも声を掛け合って体調も確認し合いながら行っている。